

六ヶ所村の開拓と国や県の主な取り組み(法令等)の年表

- 1873年 ☆新納屋に小泉金助・田中丑蔵が三戸郡豊崎村から移り住み、地引網イワシ漁を始める
- 1889年 町村制施行により六ヶ所村となる
- 1897年 ◆大野三郎氏が、岡沼平に入植開墾するが20余年間でこの土地を去る
- 1902年 戸鎖に初めて稲作水田が開かれる (1916年 泊で初めて米作りを行う)
- 1936年 ◆弥栄平に県営集団耕地として32世帯が入植(4ha/1戸)~40年
- 1945年 戦争が終わり、軍馬補充部解体 □食糧確保と雇用創設のための緊急開拓実施要領の決定
- 1946年 ○千歳地区豊瀬に上北町から8名が入植 □海外引揚者入植指導方針制定 □自作農創設特別措置法制定により開拓用地の強制買収が行われる
- 1947年 ○千歳開拓農業協同組合設立 ■上弥栄に満州からの引揚者が入植 □開拓事業実施要領制定により、農家の二男・三男に入植や地元の増反にも道が開いた □農業協同組合法制定・公布 ●庄内地区に山形庄内地方出身者の設営隊25名が入植 □農林省上北馬鈴薯原々種農場が弥栄平に設立 □農地改革により、農地の買収・売渡が実施される
- 1948年 ○千歳と豊瀬が合併して倉内地区開拓農業組合を設立。千歳地区に馬1頭配分される ●庄内地区開拓農業組合が設立され、1軒当たり土地4.3ヘクタールずつ分けた
- 1949年 ●庄内地区で農耕馬7頭入れる ■上弥栄と●庄内地区が優良開拓地として表彰される ◆弥栄平地区で、弥栄農産組合を設立
- 1950年 ◇豊原地区に樺太からの引揚者18戸入植。○千歳地区で馬5頭とトラック購入
- 1951年 ●庄内地区住宅建設が終わる
- 1953年 ◆弥栄平地区で、仔牛の肥育が盛んに行われる(約7千~1万2千万円/1頭)
- 1954年 2年連続の遅霜と台風で大被害 ■上弥栄●庄内◆弥栄平○豊瀬は、乳牛を導入、畑作から酪農へ
- 1955年 □上北機械開墾事業と農地開発機械公団の設立
- 1956年 ●庄内地区で牛乳生産はじまる 悪路で苦労する ◎北部上北開拓酪農農業協同組合設立
- 1957年 □開拓営農振興臨時措置法制定と青森県開拓経営安定計画策定される
- 1958年 ◇豊原地区全戸で乳牛導入
- 1959年 ◎北部上北機械開墾(睦栄・豊瀬)に48戸の農家が入植~62年完成 下北バス路線開通
- 1960年 ●庄内地区でトラクター1セット導入 耕地化終了 □過剰入植地等対策の実施・離農補助金設定
- 1961年 ■上弥栄地区トラクター組合を設立 □農業基本法公布 □開拓パイロット事業開始 □農業近代化資金助成交付開始
- 1962年 ■上弥栄地区テンサイを栽培 フジ製糖工場落成(~67年閉鎖)
- 1963年 □村で畜産振興を図る ◎北部上北酪農協同組合 牛乳生産額1億円突破
- 1964年 □開拓者離農助成対策要綱制定 □県営茶沢開拓パイロット事業開始
- 1965年 □開拓営農振興共同利用施設設置事業要領制定 ●庄内地区が朝日農業賞受賞
- 1969年 □開拓農家への国の助成措置終了
- 1971年 むつ小川原開発が始まる ◎北部上北酪農農業組合 生乳販売1万トン達成 大型農機具導入
- 1972年 ■上弥栄地区から日本酪農青年研究発表大会で最優秀賞受賞者2名が出る
- 1973年 ◆土地買収が進み、■上弥栄閉村
- 1976年 ☆新市街地「千歳平」と命名 A住区完成
- 1978年 □国営農用地開発事業として吹越台地の草地造成事業計画決定 □加工原料乳保証価格の据え置き
- 1979年 鷹架地区と◆弥栄平地区の閉村式 □初の生産調整が始まる
- 1981年 ●庄内地区で、肉牛施設整備し、複合経営を展開する
- 1985年 むつ小川原国家石油備蓄基地完成
- 1988年 原子燃料サイクル施設建設着工

郷土を拓いた人々

～六ヶ所村の開拓の歴史と写真展～

令和4年4月16日(土)～6月19日(日)迄

明治時代以来、六ヶ所村の台地は、「軒下まで国有地」といわれるくらい御料地・国有地が占め、陸軍軍馬補充部の監守所や放牧場がありました。戦後、軍部は解体され、荒地が広がっていました。

戦後の大きな問題として食糧確保があり、その打開策として、満州からの引揚者や村内外からの二男三男による開拓が推し進められました。当初の開拓は、人力・畜力開墾で、大変な苦勞をして開墾を進められました。馬鈴薯・大豆・小豆・菜種などの畑作中心の農業が軌道に乗り始めた頃の昭和28年29年、大冷害に見舞われ畑作は皆無作となりました。そこで、開拓の人々は、冷害に強い酪農経営の道を選択しました。北部上北機械開墾も始まり、いよいよ国内有数の酪農地帯が形成されていきました。

酪農経営は、農業協同組合を中心に牧草・飼料作物の集団栽培や共同作業に取り組み、酪農技術を磨き、多頭化や大型機械を導入して、昭和40年代に入り経営規模を拡大していきました。酪農專業化の道を目指し、搾乳経営や搾乳と肉牛用の肥育経営、肥育経営といった選択が可能となっていきました。

昭和45年からはむつ小川原開発ブームが起こり、離農者が出たり上弥栄地区や弥栄平地区は開発のため閉村したりしましたが、江戸時代から有戸野と呼ばれたこの広大な台地は、現在、人々の努力により一大酪農地帯と変貌しました。戦後の苦難の道を、一致団結して乗り越えてきたこと、畑作経営の挫折を経験するが、その後、一貫して酪農経営を中心に据えたこと、時代の変化に対応した酪農の複合経営を行ったことにより、戦後の開拓の成功例といってもいいほどの業績を残しております。

高度情報化社会の出現、価値の多様化、国際情勢の不安定化などの現代的な社会問題解決のために、私たちは、「人間性・リーダーシップ・経営の在り方」などを、開拓の人々の生きざまから学ぶところが大きいと思います。



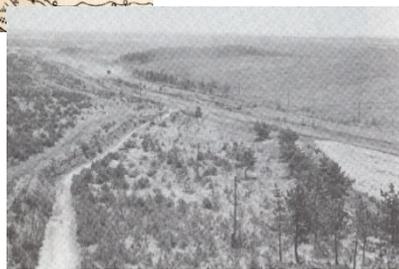
今回の企画展では、開拓の歴史のパネルや当時の生活の様子を伝える写真等を展示し、広大な台地を開墾し開拓してきた人々の歴史を振り返ります。

あわせて、山形県鶴岡市で展示紹介された「庄内開拓団物語」の資料も、展示しておりますので、お楽しみいただければ幸いです。



倉内軍馬放牧場と監守所
陸軍陸地測量部地図 大正6年

倉内監守所の跡地に、千歳中学校が建てられました。



入植前の広大な台地（六原）
『30年のあゆみ』北部上北酪農協同組合 昭和61年

雑木や笹が一面に生い茂っていました。



入植当時のランプ生活
庄内地区自治会より提供



馬鈴薯の収穫
庄内地区自治会より提供



25L集乳缶後期 佐藤氏寄贈



リヤカーで集乳所まで牛乳運搬
『30年のあゆみ』北部上北酪農協同組合 昭和61年



ローダーによる積込運搬
『30年のあゆみ』
北部上北酪農協同組合 昭和61年



庄内地区 放牧風景
『わたしたちの六ヶ所村』 村教委 平成6年